

総合殺菌剤

ストロビー® フロアブル

©:BASF社の登録商標

作物たちを優しくまもる
キノコ由来の殺菌剤です



 **BASF**

We create chemistry

- クレソキシムメチル.....4.2%
- 毒性:普通物※ ※毒劇物に該当しないものを指している通称
- 包装:500ml×20本、1ℓ×12本

特長

- ①幅広い抗菌活性で、各種作物の重要病害に効きます。
- ②予防効果に優れますが、治療的効果も有します。
- ③有効成分が植物体に均一に拡散するため、安定した効果を維持することができます。

適用病害および使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	10アール当たり使用液量(ℓ)	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クレソキシムメチルを含む農薬の総使用回数	
麦類(小麦を除く)	うどんこ病、赤かび病、赤さび病	2000~3000	60~150	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	赤かび病	500	25					
小麦		2000~3000	100~300	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内	
やまのいも	葉斑病	24	3					
やまのいも(むかご)		2000	100~300	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内	
		24	3					
きゅうり	うどんこ病、べと病、褐斑病、炭疽病	3000	100~300	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
きゅうり(花)	うどんこ病、べと病、褐斑病			収穫開始3日前まで				
すいか	炭疽病、つる枯病、うどんこ病	2000~3000	100~300	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
メロン	べと病、うどんこ病、つる枯病							
かぼちゃ	べと病、うどんこ病	3000	100~300	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
にがうり	うどんこ病、つる枯病、べと病、炭疽病			収穫3日前まで				
ズッキーニ	うどんこ病	3000	100~300	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
なす	うどんこ病、すすかび病							
ピーマン	うどんこ病、黒枯病	4000	100~300	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
とうがらし類(ししとうを除く)	うどんこ病							
ししとう	うどんこ病、黒枯病	3000	100~300	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内	
はくさい	黒斑病、白斑病、べと病			収穫7日前まで				
たかな、非結球はくさい	白斑病	3000~4000	100~300	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
なばな類	白さび病							
すいぜんじな	黒斑病	3000	100~300	収穫14日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内	
タアサイ	白さび病							
のざわな	べと病	3000~5000	100~300	収穫前日まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内	
非結球レタス	褐斑病							
いちご	うどんこ病	3000	100~300	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
にら、にら(花茎)	さび病、白斑葉枯病							
ねぎ	黒斑病、さび病、黄斑病	2000	100~300	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内	
わけぎ		3000						
たまねぎ	灰色かび病	2000~3000	100~300	収穫14日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内	
		10						0.8
		20						1.6
	灰色腐敗病	2000	100~300	収穫14日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内	
		10						0.8
		20						1.6
にんにく	さび病	2000	100~300	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内	
		8						0.8
		16						1.6
		32						3.2
薬にんにく		2000	100~300	収穫14日前まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内	
らっきょう	乾腐病	200	-	播付前				
にんじん	黒葉枯病	2000~3000	100~300	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内	
	斑点病	3000						
たらんき	そうか病	16	1.6	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内	
アスパラガス	斑点病	2000	100~500	収穫75日前まで				
食用ゆり	葉枯病	2000	100~300	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
ハセリ	うどんこ病			収穫7日前まで				
しゅんぎく	炭疽病	3000	100~300	収穫14日前まで	1回	無人航空機による散布	3回以内	
しそ科葉菜類(しそを除く)	炭疽病			収穫7日前まで				
しそ	灰色かび病	4000	100~300	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内	
	斑点病							
モロヘイヤ	炭疽病	3000	100~300	収穫前日まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内	
セルリー	斑点病							
チャービル、ディル(葉)	うどんこ病	3000	100~300	収穫3日前まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内	
さやえんどう、えんどう	さび病			収穫前日まで				
茶	もち病、網もち病	2000	200~400	摘採10日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	炭疽病、輪斑病、新梢枯死症	2000~3000						
食用金魚草	さび病	3000	100~300	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内	
食用トネア		3000						
食用パンジー	うどんこ病	4000	100~300	収穫3日前まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内	
食用西洋たんぼ				収穫7日前まで				
食用かえで(葉)	うどんこ病	3000	100~300	収穫45日前まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内	
食用ざく				収穫3日前まで				
きく(葉)	白さび病、黒斑病、褐斑病	2000~3000	100~300	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内	
きく				発病初期				
アスター	さび病	2000	100~700	収穫前日まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内	
りんどう	黒斑病、褐斑病							
たばこ	赤星病	3000	100~180	収穫5日前まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内	

△ 使用上の注意事項

- 使用済りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 使用に当たっては容器を良く振ってください。
- 散布液調製の際は、水をかきまぜながら本剤の所定量を徐々に加えてください。
- 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用は避け、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用してください。
- 小麦に対して希釈倍数500倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度運動式地上液剤散布装置を使用してください。
- いちこの施設栽培で施設内が高湿多湿な場合は、薬害を防ぐため散布後十分な換気を行ってください。また、特に散布後高湿が予想される場合は使用しないでください。
- 浸透性を高める効果のある展着剤を混用すると薬害を生じる場合があるので、展着剤混用に当たっては事前にその適否を確認してください。
- メロンに使用する場合、交配〜効果期までの散布では薬害を生じることがあるので、この時期の散布はさけてください。
- さくに使用する場合には、高温多湿条件下では薬害を生じる場合があるので使用しないでください。
- さくに使用する場合には、他剤との混用で薬害が生じる場合があるので注意してください。
- はくさいに使用する場合には、結球後期(あたまとし)までの散布で薬害が生じる場合があるので、使用をさけてください。
- はくさいに使用する場合には、高温多湿条件下では薬害を生じる場合があるので、使用をさけてください。
- 食用金魚草に使用する場合、開花後の花に薬害を生じるおそれがあるので、開花前までに散布してください。また、花に薬害が生じるため、觀賞用である(非食用)金魚草には使用しないでください。
- のざわなに使用する場合には、幼苗期の散布は多湿条件下では薬害が生じるおそれがあるので注意してください。
- しゅんぎくに使用する場合には、幼苗期の散布は多湿条件下では薬害が生じるおそれがあるので注意してください。
- アスパラガスに使用する場合には、高温多湿条件下では薬害を生じる場合があるので使用をさけてください。展着剤の加用はさけてください。
- みずかけな(水掛菜)に使用する場合は、ほ場内に水がでない状態で使用してください。また、使用后14日間は入水しないでください。
- 本剤を無人航空機で散布する場合は、次の事項に注意してください。
 - ① 散布機種種の散布基準に従って実施してください。
 - ② 散布機種種に適合した散布装置を使用してください。
 - ③ 散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - ④ 畜に対して影響を及ぼすおそれがあるので、養蚕で使用する薬液からかけないようにしてください。
 - ⑤ 散布薬液の飛散による他の分野への影響に注意して、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
 - ⑥ 散布終了後は以下の注意事項を守ってください。
 - ・使用後の空容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
 - ・使用済りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。
 - ・散布終了後、機体の装置は十分洗浄してください。また、薬液タンクの洗浄廃液は河川等に流さないでください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。使用の際は不浸透性手袋などを着用してください。

*うり類(漬物用)とは赤毛うり(モーウ)、食用ひょうたん、食用へちま、しろうり(あおうり、カリモリ、はぐらうり、青しもうり、くろうり、桂うり)、漬物用すいか(源吾兵衛西瓜)、漬物用まくわうり(べっちゃんうり)、漬物用メロン、とうがん(かもうり、冬瓜)、はやとり、ゆうがお(かんびょう)を含みます。

本資料は2024年11月現在の登録内容に基づいています。

BASFジャパン株式会社

東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号 OVOL日本橋ビル3階
☎0120-014-660 <https://crop-protection.basf.co.jp/>

取扱い